

へいわ新聞



制作者

中村
ゾーイ

麻柳

小谷さんの被爆体験

小谷さんは、^うあ、ちゃんとい^うに自分^のの被爆体験を^し語っている。

80年前、8月6日

8時15分ごろ。

当時も才だった小谷

さんは、川へ友達と

行くところ水をのみに

家に帰ったので

幸い家がかんじょう

で、きず一つ、なかつた。

でも、健康なのが罪

と言われたてもう言

中村さんが語る、核兵器

木

中村さんは、2才の時

に被爆した。

中村さんは戦争の二度

戦争をしたくないと

いう思いから戦争のこ

とを語っている。

中村さんが最初に言

をおさされて、よく話術
をならったのが、
被爆を語る始まりと
なつた。

私は小谷さんの体験
を聞いて、健康でいるこ
とが罪ということがあるこ
ろきでした。平和でいるこ
と、健康でいることがあ
つたと思つたけど平和
をなくしたのはとても大事

たのは、核兵器だけは、
ダメ。核兵器は、
とてもひきょうだから、
戦争をなくすには、
いいのいいところを
みつければ次の世代に
平和をつなぐことが
できる。と語っていた。

い、ばう、な、とをころしてしまふ。そう
でも、きかからぬはくしてから何年かたち
は、しよつするびま子に同僚しよこに
にも、よてしまふ。そうである中村さ
んも、が、ごんこのように、若、長けた子
のハトコをつるぐとりくみをしてい
はす。

ふ成り相なり

原爆についてそんなにはちあひ、
したけど中村さんの話を聞いて
よくしゃれたと思はず。

へいわ新聞



制作者

井上友斗

せんそうは急に来た。

せんそうで使われたばくたんはべつ

1945年8月6日、その日はうとうと1日が始まった。8時に15分、広島に原爆が投下された。投下された後、町は周りは炎につつまれ、お母さんたすけてとさけふ人もいた。全身やけどでひびがたたれて、い

るときは黒い雨のなか、たといでいる。せんそうというものは、以外とおそろしい事なのだと田舎い

その後、終戦1945年8月15日、そのときの死者は、14万人の人が亡くなった。せんそうの話を聞くと感想、これがいけないこと

広島はウランがた、長崎はプルトニウムがたが使われた。ではなせちがつばくせんが使われたのたろう。それはアメリカが日本をも、実験のように使ったからだ。ばくたんのしゅさはちがつ。はんいの大き父どの大キヤウちがつてきたのだ。

おどろきました。ただの9日の間で、14万人の人が亡くなった。い、たことにびくりしました。これからは、この国が平和になるようになれよう。にしたいです。

平和へ歩新聞

制作者

高山海里

弾のおそろしさをよく
知る事ができ戦争のよ
うな理由がよく伝わった。

被爆者当事者について語る

広島山へサ落とされた爆弾とは

一九四五八年八月六日
広島に世界初
の原子爆弾ウラニ
ウムが落とされ、4万人死
亡、5万人以上が負傷、
全日本に死亡爆風を
及ぼす熱線、
四十度(鉄が溶ける温
度)三〇度の放射のう
ち、
あひ十年後死に原因
白血がん、後いしよ
う、
そして爆弾で死

人でしたた人はアタラ
ルトの道の下にまじ
ます。私は被爆者の
話を聞いて、原子爆

当事者のサ落とされた時の様子

小公子さんの家族の
日の昼祖母の涙
引つすまや下定めた。
朝戦争とは思えな
いほどにまじりだした。兄弟
四人で車衣の川へその後
弟も4日目にとどまる。